

2026.02.08. 信仰の律法 パート2
ローマ人への手紙 3章 28節から 31節

Mac 牧師

主よ、あなたに感謝します。主よ、いつも私たちが養ってくださりありがとうございます。今朝、あなたの聖なる御言葉を通して、私たちが養ってくださいますように。聖霊よ、私たちが学ぶべき教訓が何であれ、私たちが日ごとに、教訓ごとに、御言葉ごとに、あなたに似た者になりますように。今朝、私たちの心に語りかけてください。主よ、マック牧師を心から感謝します。彼に御心を行ない続ける力を与えてください。私たちが御言葉に導いてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン。

主を褒め称えます。ありがとうございます。どうぞご着席ください。(会衆：アロハ～!!) アロハ!! そう言おうと思ったんですよ。主を褒め称えます。では教会よ、おはようございます。(会衆：おはようございます。) ありがとう。まさにそこに愛があります。そう言おうと思ったんです。J.D.ファラグ牧師の代理で、カルバリー・カネオへによるこそ。オンラインで参加の方も歓迎します。訪問者の方、ようこそ。ここカルバリー・カネオへの豊かな愛で、すでに祝福を受けておられますように。ではまず、次回3月3日の祈り会について皆さんにお知らせしたいと思います。計画する時間は十分にありませんから。皆さん、午後7時にお集まりください。何が言いたいかわかりますか? 午後7時、ここ礼拝堂です。ご都合のつく方は、ぜひ教会体の祈りにいらしてください。ご無理なら、おられる場所で祈り、祈りの力を忘れないでください。もっと頻繁に祈り、互いのために祈り、絶え間なく祈り続けましょう。神の御言葉に従いましょう。特に、祈りについて、それに従いましょう。パワフルです。パワフル。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。(ヤコブ 4:2)

本当に、本当にその通りです。神の御言葉にとどまるなら、人生での神の御心を知ることができます。それが鍵です。よろしいですか? ではもう一度、3月3日、ご都合がよければ、午後7時に礼拝堂にいらしてください。一緒に祈りましょう。また、J.D.牧師が今週の木曜日(2月12日)に説教壇に戻るのをお知らせします。「ゼカリヤ書」の聖書の学びを再開する前に、妻の死について率直に語り、「エゼキエル書 24章 15節から 27節」で題材のメッセージをします。また、2月15日(日)から、J.D.は、「聖書預言・アップデート」と「説教メッセージ」を再開、オンラインチャーチのためにも全てライブ配信します。私たちは、彼が戻ってくるのを心待ちにしています。状況が違っていればよかったのですが、J.D.がいてくれて本当によかったです。彼とご家族のために祈り続ける必要があります。私たちの愛する姉妹ケリーが今どこにいるかがわかっていて祝福されていることを理解してください。主に心から感謝します。だから彼の復帰を楽しみにしています。では日曜日の朝は、礼拝が2つあります。これは第二礼拝です。今朝の第二礼拝は、また「ローマ人への手紙」をご覧ください。3章、同じ節を読みますが、このトピックの別の側面に触れます。この聖句を朗読するのに可能な方は、ご起立ください。そのあと祈ります。「ローマ人への手紙 3章」、27節から、神の御言葉をお読みします。

— ローマ 3:27 —

それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行いの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。

— ローマ 3:28 —

人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。

— ローマ 3:29 —

それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。

— ローマ 3:30 —

神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。

— ローマ 3:31 —

それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。

では、主に祈り、この御言葉での時間に祝福をお願いしましょう。

天のお父様、今一度、あなたに感謝を捧げ、心を低くしてあなたのもとに参りあなたの御言葉の中で共に過ごす時間を祝福くださいますようお願いいたします。あなたの御言葉の中で、御言葉を通して示されるものによって、あなたが栄光を受けられますように。全てを表に出し、私たちがそれを明確に理解できるようにしてください。私たちが、あなたの御言葉にもっと飢え、あなたの御言葉に耳を傾ける深い願望を持つようにしてください。そして、この聖句がどんなに難しく見えても、主よ、時にそうでも、熱心にあなたを求める者たちのために、あなたはそれを正してくださることを、私たちは知っています。今朝、私たちはそれをする

のです。だからこそ、祝福が必ず来、それによって、あなたを祝福するのを知っています。ですから、あなたに栄光がもたらされますように。あなたに惜しみなくお捧げします。キリスト・イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

それでは、ありがとうございます。ご着席ください。教会よ、OK! 今朝の第二礼拝は、「ローマ人への手紙」の節ごとの学びを続け、タイトルは、『信仰の律法』のパート2です。第一礼拝では、27節だけを解説しました。でも、ここで勇気を出してください。乗り越えますよ。いいですか？ 言うておきます。なぜそうしなければならなかったかという、私たちは対処しなければならなかった、今も対処している、“触れてはいけない話題”です。その“触れてはいけない話題”とは、「信仰と行い」です。それで「ヤコブの手紙」に行き着きました。第一礼拝で起こったことを手短かに振り返ってから、この書に戻りましょう。それで、第一礼拝で、27節を活用し、この「信仰と行い」というトピックに入るための出発台にしました。具体的に、良い行いは、神の栄光のためだと示すことで、このすべての土台作りを始め、でも良い行いによって私たちの救いが決まるものではありません。これは「ローマ人への手紙3章27節」にある文脈には基づきません。でも、この「行い」と「信仰」という語彙は、ヤコブがエルサレムのユダヤ人信徒たちに語っていることは、正反対を語っているあるいは語っているように疑問に思える。これは、その書き方や解釈の仕方で、多くの混乱や分裂を引き起こし続けています。それは完全にわかります。だから、今朝はこのような形で解剖するのは。私たちがそうしながらも、皆さんは自分自身で勉強する必要があります。これだけでは十分ではありませんが、祈りつつ、いくつかの疑問が解決されるでしょう。次のように述べました。特に「ヤコブの手紙」にあるような箇所が、“saving faith/救いの信仰”に関するそういう偽教義をもたらしました。“saving faith/救いの信仰”とは、キリストだけを信じる信仰で、それが“saving faith/救いの信仰”だと言うなら、私たちは皆、同意します。しかし、あなたが救いの一部としてそこに「行い」を加えるなら、私たちは同意しません。おもな論点は、「行いがなければ、その信仰は本物ではない」というもの。本物の信仰は何らかの行いを生み出すから。これが論点です。それで話し終えたのが、信仰に基づいて、行いが救いに付随するなら、十字架上の完成された御業につけ加えている。そしてそれが、救いの無償の贈り物に疑問を投げかけることになる。本当に無償なの？と。私が何か行いをしなければならなかったら、それは無償ではないからです。考えてみてください。レストランに入って、「どうぞ。夕食は無料です。」「そうですか？」で、食事を始める。途中になって、「ところで、後で食器洗いをしてください。」それなら無償じゃないじゃん!! わかりますか？ そして、「ヤコブの手紙1章」を読んで、私たちの事例を構築し始めました。“信仰が試される”をヤコブが強調しているのを見ました。それは、私たちが信仰において成熟するにつれ、聖化のプロセスが継続することを物語ります。しかし、これらは、私たちが信仰によって、恵みがゆえに、救われることとは何の関係もありません。でもすべては、私たちの信仰が実践されているかどうかに関係します。そして、これが基本的に私たちが向かう先で、取り上げるところです。ですから、主の許可をいただいて、まず、「ローマ人への手紙」の今日の28節から説明し、この節を切り口に、「ヤコブの手紙2章14節から22節」の「信仰と行い」についてを検証します。そして、その箇所を終えたら、『信仰の律法』についてしっかり理解するため、「ローマ人への手紙」の残りの箇所で締めくくります。教会よ、大丈夫ですか？ 主を褒め称えます。ということで、今日の28節、神の御言葉をお読みします。

ー ローマ 3 : 28 ー

人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。

(結論づけます。)

使徒パウロが、信仰と律法に関して論じてきたことの最終的な結論がここにあります。これが強調しているのは、神の御目に義とされるためにする人間の行い・活動は、すべて無益である。人間は、いかなる行いに伴う律法から切り離され信仰によってのみ、神によってのみ義とされるからです。これが私たちのスタートです。繰り返しますと、使徒パウロが強調しているのは、“救い”についてです。聞いてます？ 永遠の命を得るための神からの無償の贈り物。ですから、使徒パウロが、どこから話をしているか理解できますか？ これはすべて、救いのために義とされることについてです。「ヤコブの手紙」に入るにあたって、今から言うことを頭の前面に置きましょう。それは、話したように「信仰」とは動詞の形で、「信じる」です。そして、信じる信仰とは、主語と目的語(対象)を持たねばなりません。ここまで大丈夫ですか？ ですから、救いとは、主語は「信じる者は」です。いいですか？ そして、私たちの信仰の対象は、「イエス・キリスト」です。これが救いです。キリストを信じる者は誰でも、完全に救われる。このことは、聖書で最も有名な箇所で見ることができます。「ヨハネの福音書3章16節」でしょ？ そこです。シンプルなものには理由があります。主は、私たちがすべて複雑にしてしまうことを知っておられるから。ね？ さあ、救い=安全に保証。準備はいいですか？ 私たちは救いを得て安全です。今や、私たちは救われ、新生した信者として、クリスチャンとして生きています。私たちが主語で、その目的語(対象)は、私たちの信念体系、神の御言葉の教理です。これがわかりますか？ 救い=キリストを信じること。私たちが聖化される=御言葉を信じ

ること。皆さん、大丈夫ですか？「第二テモテへの手紙 2 章 15 節」に、その考えが記されています。神の御言葉をお読みします。

一 II テモテ 2 : 15 一

あなたは務めにふさわしいと認められる人として、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい。

ですから、私たちが信仰のうちに歩む中、神の御言葉がその対象だと理解しながら、信仰の対象である神の御言葉にどれだけ根ざしているかに基づいてのみ、効果的な信者となり得ることに気づくべきです。すべては健全な教理があって、その健全な教理に従って歩むことに尽きます。信仰は、御言葉を聞くだけでなく、御言葉を実践することによって育まれます。そしてそれが、聖化への良い行いを生み出す。それが、罪の力から救われることの一部です。なぜなら、私たちの救いはすでに安全だから。皆さん、まだ大丈夫ですか？では今から、この背景を踏まえて、「ヤコブの手紙 2 章」を読んでみます。「信仰と行い」について議論するので、14 節から 17 節までを読みます。これが今、私たちがいるところで、これが私たちが取り組もうとしていることです。神の御言葉をお読みします。そのいくつかを話すつもりです。

一 ヤコブ 2 : 14 一

私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがないなら、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。

ちょっと浸ってみてください。さあ、ここにある内容からすると、読むだけならそれで終わりです。そうすると、救われるためには、これは「信仰を持って行いをしなければならぬ」を物語っている。そういう見方をすればね。おお、ちょっと待ってください。「そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。」って、おっと、じゃあ、それって、行い？ここで自問すべきは、「救う」という語彙がどう使われているかです。「状態、救い、救われた状態」という意味で使われているのか？それとも、「聖化される」という宗教的、教理的な意味で使われているのか？ついてきていますか？なぜなら、これは定義と文脈が出会う場で、何が明確に伝えられているのかを判断するためには文脈を吟味しなければならぬからです。なぜなら、これが救われた状態の救いという話なら、行いを生み出さねばならなくなる。それが結論です。言うまでもなく、これは神の御言葉の多くの箇所にも反します。神を混乱の当事者にし、神を嘘つき呼ばわりするみたいに。また、あなたが逃げようとしないう限り、「だから、これが救いを失うこともある理由。」となる。そして、それを信じるなら、いずれにせよ、また行いのサイクルに戻ることになる。そして、あなたはまた神を嘘つき呼ばわりする。だから、宿題を出しましょうか？ここでの「救う」という単語を見てみましょう。そうすると、ギリシャ語の「sōzō/ソゾー」です。「回復する」「守る」という意味で、「救助」や「癒し」という意味もあります。そして、この「救う」という単語は、能動的な意味で使われています。それが救いとなると、考えてみてください。それは能動形ですか、受動形ですか？過去ですか？ね？実際に起きた。現在進行形ではありません。キリストの血潮によって救われるという救いは、すでに起こったからです。私たちが見た救いの時制について言うと、救われることの積極（能動）時制は、聖化に関するものです。使徒パウロが言うのと同じ概念です。「恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。」（ピリピ 2 : 12）

彼はこの言葉を、聖化の能動的意味で使っています。そして、それは信仰に関してで、先ほど話した信仰の動詞は「信じる」です。そしてクリスチャンとして歩む私たちの信仰の対象は、クリスチャンとして聖化されるため必要なのは、神の御言葉にある。ただ御言葉を聞くだけでなく、健全な聖書の教理に基づいて御言葉を実践すること。それが私たちの信仰を成長させる。それをすると、何が自動生成されると思いますか？「良い行い」です。14 節の冒頭から、ヤコブが信者仲間に語っていることがわかります。それがわかりますか？彼は「私の兄弟たち」と言います。その理解を持つと、ヤコブが問うているのは、聖書の教理があると主張する人は、その教理だけで聖化されるのか、です。聞こえますか？教理だけで聖化されるのか？答えは、されません。無理です。改めて、考えてみてください。正しい教理を実践せずに持っているだけで、誰かを聖化できるでしょうか？できません。無理です。信者が信仰において成長するため、聖化されるために、その理解が実践されねばなりません。そして、この信仰における成長は、霊的恩恵をもたらすだけではなく、私たちの人生に一時的、物理的な益をもたらします。だからヤコブは先に、神の御言葉を実践することがいかに自分の魂を救うかを語るのです。その救うというのは、能動的意味で、彼は、私たち日々の生活について話しています。でしょ？神の御言葉は明確です。神の御言葉に従わないことで、早死にすることがあります。教会よ、いいですか？繰り返しますが、これらすべてが聖化のプロセスで、完全に理にかなっていません。なぜなら、私たち信者のほとんどが人生の大半を過ごす所だからです。だからといって、この期間に私たちが聖化されるという領域で生産的だと言っているのではなく、私たちはこの期間に生み出す機会が与えられている。そうするかしないかは、私たち次第です。なぜなら、私たちは肉欲のままに生きることを選択できるからです。第一礼拝で触れましたが、それは、信者を死に至る罪の中に閉じ込め

る。靈的にですか？ そうです。生み出さない。役立たず。そしてヤコブが実際に続けるのは、エルサレムにいる信徒たちと一緒に自分がいた場所、あるいは彼らがいた場所を示す状況を提示。信者が金持ちをひいきしていました。そして、おかしなことに、その金持ちたちが彼らを迫害していた。信者が、お金持ちと仲良くしようとしていて、そのうちの何人かは、貧しい同胞を邪険に扱っていた。彼らは、言わばお試し期間。そこでヤコブは、15 節でこう言います。

— ヤコブ 1 : 15 —

兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、

— ヤコブ 1 : 16 —

あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、・・・

ここで止めます。つまり、何が起きているのか？「ああ、御言葉どおり、必要なものがすべて与えられるように祈ります。神は必ずそれを与えてくださいますよ。」同時に、その状況を助ける手段を持ちながら、神の御言葉を言い訳や盾にして、実際に神の御言葉が仰ることを実行しないようにしている。だからヤコブは続けるのです。

・・・からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。

無意味。彼らにはどんな利点がありますか？ 何もない。そして 17 節、ヤコブは語ります。

— ヤコブ 2 : 17 —

同じように、信仰も・・・

(神の御言葉を理解し、あなたの頭の中にある、この教理がいっぱい。この教理を全部、私は持つてる。)

・・・信仰も行い(健全な教理の実践)が伴わないなら、それだけでは死んだものです。

これが語っていることです。それが事実です。ここでヤコブの語る「死んだ」とは？ この「死んだ」という単語をギリシャ語で見ると、ギリシャ語の「ネクロス」です。これが英語の「降霊術」の語源です。そして、聖書の文脈に関係する通り、この単語には「有益な用途なし」の意味が含まれます。「有用な機能を果たせない」という意味です。「ヘブル人への手紙 6 章 1 節」にも同じ単語が使われています。神の御言葉をお読みします。

— ヘブル 6 : 1 —

ですから私たちは、キリストについての初歩の教えを後にして、成熟を目指して進もうではありませんか。

死んだ行いからの回心、神に対する信仰、ここでもまったく同じ考えが暗示されていますが、いわば領域の向こう側です。わかる通り、これらの行いは、この節にある救いを得ようとする、あるいは、救いを維持しようとするための、役に立たない行いです。これこそ、使徒パウロが反論してきたことです。それがここでわかりますか？ これらは聖化のための行いではなく、死んだ行い、役に立たない行いです。さあ、この次の節は、おそらく私たちが理解するため最も重要な節です。具体的に、18 節 19 節のような宣言を誰がしているのか、です。なぜなら、ここで何が起きているのかを知ることで、多くのことが明らかになるからです。注目ください。18 節の冒頭で、ヤコブが言います。

————— と言う人がいるでしょう。・・・

皆さん、わかりますか？ この時点でヤコブは、私たちに想定上の反対者を示します。つまり、ヤコブが 14 節から 17 節にかけて語ったことに挑む、この想定上の反対者が現れた。わかりますか？ だから彼は言うのです。「でも、誰かがこう言うでしょう...」そして、この挑みは 19 節まで続きます。しかし、この新ジェームス王訳のように多くの翻訳では、18 節冒頭で反対者を止めます。それがわかりますか？ でも私は言うっておきます。反対者はここで反対を終えるわけではありません。今から見るように、19 節までずっと続きます。他に注意すべき点は、彼の異議は、皮肉な形で言われ、提示されます。使徒パウロがこういう対話と実践をしているのが、「ローマ人への手紙」の学びの中でも見たことがあります。そして、この実践の名称は、「痛烈な非難」と呼ばれます。あまり専門的なことを言うつもりはありませんが、そっちに向かった方がいいかもしれません。”それは仮説上の他者に向けられた演説ながら、読者や聞き手への説得をさらに完全に意図する。”皆さん、聞いてます？ この考えは、架空の相手と議論することで、議論している人は、仮にでも現実的な、いくつかの質問ができます。通常は二人称単数の用語で使用されます。これらの疑問に反論するために行われます。そして、このようにすることで自分の主張を前もって明らかにすることで、この後の議論を先取りします。これは問題の先取りです。「あなたが何を聞きたいかは分かっています。私はあなたのためにそれを尋ね、神の御言葉の御力によってあなたのためにそれに答えます。」今日の事例を構築するため、使徒パウロが「第一コリント人への手紙 15 章」、35 節から 38 節にあるように、どのように議論を展開したかを見てみましょう。神の御言葉をお読みします。さあ、冒頭に何が見えますか？

— 1 コリント 15 : 35 —

————— と言う人がいるでしょう。・・・

これが想定上の反対者です。

— 1コリント 15:35 —

しかし、「死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか」と言う人がいるでしょう。今、何が起きているかというと、

— 1コリント 15:36 —

愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ生かされません。

— 1コリント 15:37 —

また、あなたが蒔くものは、後にできるからだではなく、麦であれ、そのほかの穀物であれ、ただの種粒です。

— 1コリント 15:38 —

しかし神は、みこころのままに、それにからだを与え、それぞれの種にそれ自身のからだをお与えになります。

まず第一に、私たちが例として活用している一節はなんと素晴らしいものでしょう。でも私がここで言いたいのは、こういう言論スタイル、あるいはこのような発言が、反論は、反論声明を出すことで結論づける。

「愚かな人だ。」で。これがわかりますか？ ここで、この発言で、議論を却下し始めていることがわかります。読者に、「ああ、ギアがシフトしたんだな」と思わせます。これがわかりますか？ まさに、これがヤコブがここでしていることです。だから、18節と19節は想定上の反対者への発言なのです。そして最終的に、その反対者が証明しようとしているのは、教理知識、積極的信仰、そしてその実践＝聖化に、これらの行いは、実際には関係がないと。それが彼の言いたいことです。それは大間違い。今、ここで話しているのは、聖化される信仰についてですよ？なので、この時点で私が試みるのは、想像上で反論者を演じます。いいですか？ええ、ちょっとクリエイティブに。そして、そのために、ある意味で記述を言い換えます。ご辛抱ください。ポイントを押さえます。そうすることで、何が起きているのかで事実を伝えることができます。OK、準備はいいですか？ よかった。では、神の御言葉があつて、これが出てくる：**(ヤコブ2:18)**

「しかし、こう言う人がいるでしょう。」さあここで想像上の反論者、それが私です。いいですか？ この状況を聞いてください。「あなたは信仰があるのですか？ 私には行いがあります。言っとくけど、相棒よ、あなたの信仰を見せて。行いなしに、ポケットの中を探って、私に信仰を見せて。私は行いで私の信仰を見せましょう。でも、あなたが先に見せて。」何が起きているかわかりますか？「さあ、行いのないあなたの信仰を見せて。あなたの信仰を見せてよ。それから、私の行いを見せるから。見せてよ。あ～信仰のかけらも見せられないでしょ？ あはは。あなたは見せれない。」何が起きているかわかりますか？それがどのように続くか見てください。19節を、無数の方法で使っています。でも、文脈から言っているのだから、これがどう当てはまるか確認してください。

— ヤコブ 2:19 —

あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。

訳すと、私は信じています。悪霊も信じています。結果は違いますよ。プッ！ 本当に何が起きているのか、わからないじゃないですか。でも、信念はまだそこにある。どういうことかわかりますか？ 繰り返しますが、これは聖化のプロセスを扱っています。これがヤコブが釘を刺そうとしていることです。「ちょっと待って。教理を実践せずただ持っているだけではいけません。それは神の恵みの意図ではありません。全然違います。」教会よ、わかりますか？ ヤコブは20節で、御霊によって再び自分自身で登場します。

— ヤコブ 2:20 —

ああ愚かな人よ。あなたは、行いのない信仰が無益なことを知りたいのですか。

彼はすでに語ったことを繰り返します。どういうことかわかりますか？「あなたは異論があるのですね。でも、本当に知りたいの？ 私がお見せしましょう。その仕組みをお見せしましょう。」

彼は、学んだ信仰が実践されたときに何を生み出すかを示すため、力強い方法でそれをしようとしています。もっと具体的には、私たちが試される時、それがどのように実践されるかです。これがすべての背景です。そして、私たちはこれらの節、特に次の2節をよく考えねばなりません。いきますよ。というのも、救いに関するおなじみの言葉が、ここでポイントを示すために使われているからです。このまま進んでいいですか？ よかった。「ヤコブの手紙2章」、21節22節、神の御言葉をお読みします。

— ヤコブ 2:21 —

私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇に献げたとき、行いによって義と認められたではありませんか。

さあ、ちょっと待ってください。私たちが自問すべきは、何が先か、です。アブラハムは信じて義となったの？ それともイサクが祭壇にささげられたから？ 私たちは知っています。アブラハムは、イサクが祭壇に

置かれる前に神の約束を信じた。でしょ？（会衆：そうです。）聖句にあるとおり、その時が、彼が義と認められた時です。（創世記 15:6）

では、アブラハムがすでに信仰によって義と認められた後だったなら、なぜヤコブはイサクの犠牲を先に言うのか？ なぜなら、ヤコブが言おうとしているのは、これが成熟した信仰が生み出すものだという事。それは信仰において、行いを生み出します。そういうことです。それは確認であって、救いに至る義認ではありません。ましてや、アブラハムの信仰は、真の生ける神によって試された。覚えていますか？ これがその記述のすべてです。そして、これは、ヤコブがエルサレムの信者たちに伝えようとしている要点です。たとえ生活面で迫害を受けようとも、完全に窮地に立たされようとも、そんなことは問題ではないということ。彼らは、神が自分を見守って下さるとする信仰を持ち、周りの人たちに合わせるのをやめ、貧しい同胞を愛情なく扱うのをやめる必要があった。成熟した信仰は良い行いを生み出します。そして、試練の時にどう反応するかで、その信仰がどれだけ成熟しているかが決まります。その考え方に矛盾はありません。続いて 22 節、失礼。

一 ヤコブ 2 : 22 一

あなたが見ているとおり、信仰がその行いととも働き、信仰は行いによって完成されました。

信仰がないとは言っていません。信仰は完全なものとなった。あるいは、こうも言えます。アブラハムは、神の御言葉と忠実さに関して、すでに知っていたことを実践した。そのおかげで、彼は聖化の行いを生み出し、その行いが神の御目に義とされ、彼の信仰が完全なものとなった。結局のところ、これこそ、私たちが信者として目指すべき先です。そしてそれは、私たちの信仰が完成される場所。ここで「信仰と行い」について一旦立ち止まり、22 節に書かれていることを踏まえ、これらすべてを締めくくろうと思います。ええ、読めばわかるように、私がなぜここで止めたかという、文法的な問題があって、ここはそのための場ではありません。座ってノートを開き、ギリシャ語の世界に入り...いや、いや、いや。自分一人でもできますよ。それか、別の場所で会いましょう。でも大事なものは、祈りつつ、この先も続けて十分学べます。なぜなら、私たちにあるのは、私たちの信仰を完全にするための青写真を与えてくれると信じるからです。そしてこれこそ、私たちがクリスチャンとして生きていく上で見つめなければならないことです。覚えておいてください。私たちがすでに救われています。その信仰は、私たちが信仰を持つようになったとき、すでに見られました。しかし、それで私たちの信仰における霊的生活が終わりではありません。これが、私たちの信仰には強い能動的・受動的側面が必要な点です。私たちの信仰が完全になるために。私たちの信仰の能動的側面は、常に神の御言葉を積極的に信頼することです。それは継続的に、です。繰り返しますが、私たちはすでに信仰にきました。私たちは神の御言葉を積極的に、つまり日々の歩みの中で一貫して信頼する必要があります。そして、私たちの信仰の受動的な側面については、自分に経験的知識、健全な教理があることです。私たちは、自分たちが何を信じているのか、そしてなぜそれを信じているのかを知る必要があります。こうではありません。「私は誰それです。私はクリスチャンです。」なぜ自分が信じていることを信じているのか、わかりますか？ どのように人生を乗り切っていますか？「私はクリスチャンです。」と言うだけでいいですか？ それとも、あなたが行って、導いてくれる何かがあるのですか？そのことは、『弟子を作る』という御教えの中でも、他のところでも話しました。私たちの信仰を完全なものにする鍵は、私たちの信仰をより完全なものにするために、この 2 つを組み合わせることです。これは、健全な教理を持ち、神の御言葉を信頼すると同時に、神の御言葉を実践すること。それが良い行いを生み出します。すると、どうなると思いますか？ 道は 1 つだけ。試される。信仰は試され、試練を受けなければなりません。それはすべての信者にとって、何らかの形で印となります。そのテストに合格するかしないかは、また別の話です。そして、もし自分が信仰の面で試されたことがないなら、問題です。それは別の問題です。信仰が試されていないなら、何か間違っています。でもこの遠回りで風光明媚なルートを選んだのは、「信仰と行い」を取り上げることで、このトピックにありがちの、非聖書的な面を取り除きたかったからです。また、特にこのことについて混乱しているのなら、独自で研究することをお勧めします。他人からではなく、私も含めて、自分で座って、主と 2 人だけになる。聖霊の御力によって、主があなたを導いてくださるとおりに。あなたは祝福されるでしょう。あなたがそれを求めるなら、主はそれを明らかにして下さるからです。でも、これで多少、役に立ちますように。あなたが励まされたことを祈っています。では最後に、「ローマ人への手紙 3 章」に戻りましょう。29 節、神の御言葉をお読みします。

一 ローマ 3 : 29 一

それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。

ここには、使徒パウロは、ユダヤ人の同胞たちがすでに知っていて主張していたこと、つまり、神は唯一であることを実証します。でもそのために、彼らは少し時間を取って、立ち止まらねばなりません。そして気が付く、「はい、私たちの神、主は一人です。」神が唯一にして真の神なら、神はすべての民、つまり異邦

人の神でもあられます。「ちょっと待ってください。それはあまりいい気分ではありません。ええ、神が私たちの唯一の真の神でそれ以外の者を罰されるのは、かっこいいけど、でも、みんなにとっても神なの？」
どうなるかわかりますか？ それは神の所有権という概念を取り去ります。私たちは神の所有者ではありません。いいですか？ 違います。主を象徴するという事は、自分が主を所有していると考え、自分が真の生ける神への唯一の権利があると考えることと、まったく違います。いえ、まったく。神は唯一です。すべての神であられる。使徒パウロはこのことについて、別の箇所で次のように語っています。「第一コリント人への手紙 8 章 6 節」、神の御言葉をお読みします。

— 1コリント 8：6 —

私たちに、父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によって（通して）すべてのものは存在し、この主によって（通して） 私たちも存在するからです。

この学びにハンディをつけるわけではありませんが、この聖句は、真の生ける神の唯一性について、聖書の中で最も過小評価されている箇所のひとつでしょう。ここで何が伝えられているのかを考えてみてください。この言葉を聞いてください。「父なる神によってすべてのものがあり、主イエス・キリストを通してすべてのものがある」。ちょっと待って。私たちは、すべてのものに責任ある 2 つの別々の存在を持てません。わかりますか？ そういうことはありません。なぜなら、「of（～の）」と「through（～を通して）」で、すべてが語られ、両者は、同義語で使われています。私たちの前にこのことがすべて書かれているのですから、それが何を物語っているかわかりますか？三位一体の神の力強い御姿です。こんなことを考えたことはありますか？ 神の御言葉は、神の息吹そのもの。それは分かっていますよね？ 聖霊の御力によって、この聖句が記された。父と子が一つであることがわかる。点と点が繋がりますか？ 余談ですが、私たちが聖書を読み、父なる神と子なる神を見るたび、聖霊がその御言葉を聖書の中にそのように置かれた。聖霊が常におられるのは、神の御言葉そのものが私たちに語りかけ、三位一体をより明白になさるからです。皆さん、わかりますか？ そして、使徒パウロが表現しているのは、神は唯一であるということ。そうである以上、すべての者が同じ方法で義とされる。そして私たちは、その方法が「信仰だけによる」ことを知っています。続きまして、この真理は、今日の 30 節にあります。神の御言葉をお読みします。

— ローマ 3：30 —

神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。

ここで使徒パウロは、先ほど説明した、同じ基準によってすべての人を義とする唯一の神がおられるという事実を繰り返して述べます：「信仰によって」「第一コリント人への手紙 8 章 6 節」みたく、ここで「信仰によって」「信仰を通して」が同義語として使われています。まったく同じ意味です。そうでなかったら、ああ、割礼を受けていない人の信仰と割礼を受けている人の信仰は違うということになります。それがわかりますか？ でも、話したように、神の御目に義とされるために、特別な信仰が必要なわけではありません。聖霊がこのように聖書の中に置かれたことは祝福です。なぜなら、将来的に何らかの異なる信仰を挿入するという概念がなくなるからです。誰かがやってきて、眉をひそめ、このような言い方をしたでしょう。あ、「～によって」と「～を通して」？ それって違うの？と。私たちのやり方はご存じでしょう。すべてを混乱させる。でもこのことについてあまり知られていないのは、この聖句が、すべての人々に対して、それまで見られなかった何かを紹介していること。それが神の恵みです。このご方法で。「ローマ人への手紙」では、この時点から、キリストがどんどんクローズアップされていきます。キリストのおかげで恵みが溢れるのです。ローマの信者の多くは、この恵みを理解していたものの、その多くは消極的であったようです。特にユダヤ人たち、この恵みを、律法を中心とした何かを付け足すことなく受け入れるには。でもその律法は成就しました。こんにち、義とされる律法は「信仰の律法」だけです。義とされるのは、唯一それだけです。その「信仰の律法」によって、恵みは全人類に提供されます。「テトスへの手紙 2 章 11 節」、神の御言葉をお読みします。（画面が消えた？）

— テトス 2：11 —

実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。

これがわかりますか？ この「現れた」という語彙に気づかずにはいられません。このギリシャ語の単語は、新約聖書の中で他に 2 回しか使われていないから、私たちのために何が伝えられているのかを明確にする必要があります。ギリシャ語でこの単語は「光を与える」、「照らす」という意味です。これが神の御言葉の中で初めて見られるのは、「ルカの福音書 1 章 79 節」です。それは、「ゼカリヤ書」の預言です。イエスのことを指しています。神の御言葉をお読みします。

— ルカ 1：79 —

暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。

これこそ、私たちが平和のうちに歩めるように、光をもたらした驚くべき恵みです。キリストだけを信じる信仰のゆえに。

では、最後の節、「ローマ人への手紙3章」の今日の31節、神の御言葉をお読みします。

ー ローマ 3：31 ー

それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。

そう、ここで使徒パウロは、私たち全員が意識すべきことを宣言します。このことを十分に説明できるよう最善を尽くします。でも、どうしても、何が語られているのか、また何が語られていないのかを理解するため、自分で再見してください。まず第一に、律法は無効になっていない。律法は成就された。神の御目に義とされるためのすべての行いに関する律法の道、それはすべて、神の御霊によって正されることの予兆でした。なぜなら、イエス・キリストの福音以前は、律法は人間の肉において守られようとしていたからです。しかし今は、「信仰の律法」によって、聖霊が、愛のうちに神と正しく歩むことへと私たちの導き手となってくださいます。それがキリストの律法成就です。イエスは律法の成就者ですから、御霊によって主の愛のうちに歩むことは、律法を確立することになります。この理解は「ローマ人への手紙8章」、3節と4節にも記されています。神の御言葉をお読みします。

ー ローマ 8：3 ー

肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。

ー ローマ 8：4 ー

それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

繰り返します。私たちは信仰によって恵みがゆえに、救われるのです。信仰の律法」とは、何があろうと常に律法でなければならぬからです。ですから、私たちは「信仰の律法」を守るのか、「モーセの律法、または、人間の中にある生まれながらの律法」を全うするか、どちらかを選べます。でも、神に義とされる律法は1つしかありません。こう言う方がいいですね。この律法の下にある者に神の義が付与されるのは、「信仰の律法」です。前にも述べたように、この律法に付け加えることはできませんし、この律法から何も取り去ることもできません。そして、この律法に従って裁くことができるのは、律法成就者ご自身だけです。

では、パウロにならせてもらいます。いいですか？ ですから、私たちは次のように結論づけます。「信仰の律法」が最も優れた律法である。それは、人間が知っているあらゆる律法より優れており、すべての人類が従うべき律法で、全人類がその下にいたいと望むべき律法で、愛に満ちた神だけが人類に与えられる、永遠の命という無償の贈り物を含む律法。でも、主を知らないあなたは、あなたは現在、かつての私たちのように完全に非難された状態で生きています。なぜなら、義認の状態で生きる唯一の方法は、「信仰の律法」下で生きることだからです。その他の状態、他のどんな律法も、その律法下にとどまることを選択した人々を非難します。こう言う人がいるでしょう。「私は良いことをしている。私は良い人間です。私は良い行いに満ちている。」それに対して、私たちは言います。「愚かな人だ。」生ける神の御前で義とされるためには、あなたの良い行いは、一片の罪にも勝りません。あなたには主の「信仰の律法」を見る機会があります。全人類に提供される、罪の問題に対処する愛に満ちた律法です。私たちを神から引き離すのは罪だからです。信仰によって義とされることによってのみ、私たちは生ける神との永遠の交わりになる神との関係を持てるのです。そして、その関係が築かれるのは、御子イエス・キリストを通してです。私たちが神の子として、キリストと共同相続人として生きることを可能にしてくれます。それが、私たちがいたいと望むべき所です。なぜなら、私たちが断絶の状態にとどまることを選ぶなら、罪のうちに死にます。罪は、永遠の破滅をもたらす死刑です。イエスを信じることによってのみ、私たちの罪は赦されます。それが永遠の命を与えます。ですから、今日、「イエス・キリストの福音」によってイエスを選ぶことを強くお勧めします。「イエス・キリストの福音」とは、聖書に書いてある通り、キリストが私たちの罪のために死なれ、葬られ、3日目によみがえられたことです。(第一コリント15章1～4節参照)

救われるのは、ABCくらいシンプルです。まず

A：自分は罪びとだと、救い主が必要だと Acknowledge/認める。その救い主は、イエス・キリストです。

ー ローマ人への手紙3章10節 ー

義人はいない。1人もいない。

ー ローマ人への手紙3章23節 ー

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

誰も自分の功績で神のもとに行けません。どんな行いであっても。すべては神の恵みです。

ー ローマ人への手紙6章23節 ー

罪の報酬は死です。しかし神の賜物は私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

それがAです。Bは、すべての中心B：Believe/信じる。Cは、C：Confess/（口で）告白する。どちらも、同義です。教会よ、聞こえますか？ どちらも、「ローマ人への手紙10章9節10節」にあります。

ーローマ人への手紙10章9節ー

あなたの口でイエスは主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。

ーローマ人への手紙10章10節ー

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

同義です。これが救われ、罪の問題をきっぱりと解決するシンプルな方法です。神は、私たちを愛しておられるから、私たちと和解するのを望んでおられます。御言葉で具体的に仰せられます。

ーIIペテロ3：9ー

主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

あなたの思いを変えてください。そして、神がおられる光の中で神を見てください。あなたが今日、イエスを救い主とされたことを祈ります。そのおかげで、非難される心配はまったくなくなります。なぜなら、あなたの救いは確実に保証されているからです。あなたが、「信仰の律法」の下で生きることを選んだからです。ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様、本当にありがとうございます。あなたの御言葉はとても素晴らしいです。このしもべは壊れているので、あなたのパワーが、伝えきれなかったすべてを上書きしてください。あなたがそれを御霊の御力で伝えられる時、それが正しく伝わるからです。あなたの御言葉を頼りにします。あなたを拠り頼みます。そして、これほど多くの情報をくださるほど、私たちを愛してくださる主がおられることに感謝します。でも、あなたの恵みの下にあるシンプルなお方法で。そして、私たちがそれを活用し、日々、良い行いをし、信仰を深めますように。私たちにその願望を与えてくださいますようお願いいたします。感謝してもしきれません。あなたを愛しても十分ではありません。でも主よ、最善を尽くします。ですから、私たちがあなたの御心に従って生き、あなたより良い証人となれるよう、私たち一人ひとりの前を独特に行ってください。キリスト・イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7